

日本放射線腫瘍学会第 30 回学術大会 印象記

田中 正博^{※1} 井上 裕之^{※2} 片山 沙織^{※3} 患者会代表^{※4}
Tanaka Masahiro Inoue Hiroyuki Katayama Saori

日本放射線腫瘍学会（以下 JASTRO）第 30 回学術大会（大会長：大阪国際がんセンター 放射線腫瘍科 主任部長・大阪大学名誉教授 手島昭樹先生）が 2017（平成 29）年 11 月 17～19 日の 3 日間グランフロント大阪北館（ナレッジキャピタルコングレンベンションセンター、ナレッジシアター、他）を会場にして開催されました。

メインテーマは放射線腫瘍学の役割拡大：ビッグデータ時代における挑戦であります。手島大会長のライフワークとも言うべき全国実態調査データ（構造、症例 JROD）を基に他がん登録（NCD、臓器別、地域、国）、米国 NCDB との比較分析も行われ、①現在既に実績があるが、更に洗練化された治療を適用すべき領域、②実績は少ないが新たに開拓可能で潜在需要の大きい領域、③実績はあるが正当に評価されていない領域について活発に討議されました。グランフロント大阪は新しく開発された商業スペースです。おしゃれな飲食店や店舗が多数入っています。会場の移動は上下左右に立体的に移動する必要があるため、大会初日は何度か迷子になりました。要所には係員が配置されており、案内看板も充実していたので、2 日目からは迷うことなく移動できました。息抜きのティータイムや食事は近くにコンビニからすてきなカフェやレストランが多数あり、とても充実でした（笑）。田中ひとりで大会の全容を伝えることは力不足なので、大阪市立総合医療センターの井上医学物理士に医学物理の話題を、片山がん放射線療法看護認定看護師に看護の話題を、匿名希望の患者会代表に一般向けプログラムの印象をお願いしました。

シンポジウム（2）「食道癌に対する治療戦略」川崎幸病院の日月裕司先生の基調講演は JCOG 食道がんグループの臨床試験を過去から現在にわたって網羅的に解説されました。JCOG9907 試験の結果を受けて、臨床病期Ⅱ・Ⅲ食道がん手術の標準治療が日本全国一斉に術前化学療法併用になりました。JCOG0502 試験でⅠ期食道がんに対する手術と同時化学放射線療法ランダム化試験結果がまもなく出ること、JCOG1109 試験で臨床病期Ⅱ・Ⅲ食道がんに対する術前（CF 対 DCF 対 CF-RT）3 群比較が進行中であること、海外のデータではあるが、術前化学放射線療法を実施し、著効した群では手術せず、根治的放射線療法が同等の生存率であること等報告されました。同時期にほぼ同じステージで手術を希望されない患者さんを対象に化学放射線療法を実施した JCOG0909 試験登録が完了し、追跡期間中とのことでした。これら臨床試験の結果が出ると、日本の食道癌治療は手術から化学放射線療法にパラダイムシフトする可能性があります。また再発に対する救済手術、放射線療法、内視鏡治療、化学療法の専門家が力を合わせていく必要があります。

（田中正博）

米国医学物理界の第一人者である Indra J Das 先生による講演で、医学物理分野での現時点での到達点と将来解決すべき課題についての分析を聞くことができました。Imaging, Dose calibration, TPS（治療計画装置）や計算アルゴリズムといった分野では現時点で 80%以上の到達度と分析されていたのに対し、Radiomics や Genomics といった Biological 分

野での到達度は5%と非常に低いと分析されていたのが印象に残りました。近年のコンピュータの進化、情報解析技術の発展等により Radiomics に注目が集まっており、本学会でも機械学習に関連した研究発表が何題も見られました。まだ研究段階ではありますが、放射線治療でも今後の活用が期待され、医学物理士が担うべき新しい分野であると Das 先生もおっしゃっていました。Radiomics の理解にはコンピュータ、統計学、データ分析の知識が必要で一朝夕にはいきませんが、近い将来の臨床応用に向けて準備をしていく必要があると感じました。医学物理の歴史、現状を知るだけでなく日本での研究に参考になる内容でもあり、非常に有意義な講演でした。(井上裕之)

今年度実施された第30回日本放射線腫瘍学会の看護のセッションでは、例年より『有害事象』についての内容が多かったように感じました。その中でも、特に放射線皮膚炎に対するケア方法については大変印象に残る内容がありました。放射線皮膚炎はボディイメージの変容だけでなく、疼痛も伴い、患者さんの苦痛やQOLの低下に繋がります。現在、がん患者さんに対するアピアランスケアの重要性が提唱されていますが、放射線皮膚炎のケアに対するゴールドスタンダードはありません。今回、放射線治療開始時からの軟膏塗布による保湿で放射線皮膚炎を低減できたものや、症状の出現直後から被覆材を使用することで悪化を防ぐことができた例等の発表がなされていました。当施設でも患者さんに生じた放射線皮膚炎のケア方法に難渋することがあり、放射線皮膚炎に対する適切な処置方法は私自身も課題に感じています。今回の学会に参加し、他施設の取り組みや、新しい見解を聞くことができ、とても勉強になりました。私は、治療を受ける患者さんの苦痛を最小限にすることが看護師の責務の1つであると考えています。今回得られた知識は、患者さんの苦痛の軽減に繋がれる可能性があり、今後の患者さんのケアに活かしたいと思うものばかりでした。(片山沙織)

「特別講演と音楽の集い」について紹介します。当日11月18日はあいにくの雨。グランフロント大阪「うめきた SHIP ホール」で「大人のためのがん



写真 メイン会場入り口

教育」というテーマで中川恵一先生(東京大学病院)の講演がありました¹⁻³⁾。保健の時間、小学生からがん教育が必要で日本はがんを苦しめた自殺が多いといった話でした。会社でのがんについての講演会。外科医や産婦人科医のテレビドラマはあるのに、放射線治療医のドラマは無いと嘆かれていました。お話がうまく、おもしろかった!! 午後からは JASTRO オーケストラによる「JASTRO 音楽の集い」がありました。途中の楽器紹介等、とても盛り上がっていました。「花は咲く」の合唱コーナーではトランペット担当の先生の名調子のご指導で、楽しく練習できました。練習のあとオーケストラの生演奏で大合唱でした。楽しかったです。オーケストラの演奏は予想以上に上手でした。きれいな音色のハンドベルコンサートでは体験コーナーもあり、お客さん15名ほどでドレミの歌を演奏されていました。皆さん楽しそうでした。最後の演奏「くるみ割り人形」は圧巻でした。

(患者会代表)

手島先生、素晴らしい30回大会をありがとうございました。そして、お疲れさまでした。

注 釈

- 1) 大腸がんの検査について
http://www.u-tokyo-rad.jp/staff/data/nakagawa_serial_nk170216.pdf
- 2) 日本はがんを苦しめた自殺が多い
http://www.u-tokyo-rad.jp/staff/data/nakagawa_serial_nk171026.pdf
- 3) 会社でのがんについての講演会
http://www.u-tokyo-rad.jp/staff/data/nakagawa_serial_nk160414.pdf

(※1※2 大阪市立総合医療センター 放射線腫瘍科、※3 大阪市立総合医療センター 看護部、※4 患者会)